

県政活動報告書



みんなの声を県政へ
茨城県議会議員

きよし
とつか 潔



「人が輝くまちづくり」に全力で取り組んでいます！

皆様方には平素より外塚潔の県政活動につきまして、多大なるご支援とご協力をいただき誠に有難うございます。日頃、外塚潔に対し賜りましたご厚情に深く御礼申し上げます。

昨年は、農林水産委員会 委員として、茨城の食のイメージアップと販路拡大を図り茨城を食べよう運動等を推進し茨城の安全な職を支える農林漁業者の応援をしてまいりました。

本年は、**保健福祉委員会副委員長、決算特別委員会委員**として活動に取り組んでおります。

今年の保健福祉委員会は、「**少子化対策の充実～子どもから高齢者まで安心して暮らせる社会を目指して～**」をテーマに調査活動をおこなってまいりました。

次世代に向け、結婚・妊娠・子育ての切れ目ない支援を行い「サポートセンターの充実」・「産前産後ケアの推進」・「待機児童ゼロ・保育士の修学資金支援事業の活用」等を進めてまいりました。昨年度から始まった、援護を必要とする子ども達への支援においては、学習支援事業や発達障害のスクリーニング体制の充実など、市町村や関係機関等と連携し支援を図ってまいりました。

また、**医療体制の充実**については県北鹿行地域の医師確保の難しさや救急医療体制の充実、整備における県の役割について議論を重ねました。取り組みの中で、県議会議員発令の条例に基づくAEDの使用促進のための必要な施策の更なる推

進を図りました。

高齢者の活躍促進について、地域社会における支え合いなど、高齢者の自主性を十分に尊重しながら、高齢者が積極的に地域社会に参加するなど、いきいきと活躍できるための支援や環境整備、仕組みづくり等の促進を図りました。

これからも皆様が安心して暮らせる社会の実現に向け、精一杯取り組んでまいります。

本年、県は「**茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略**」に基づき企業誘致をはじめ科学技術を活用した新産業の創出、観光産業の振興、つくば霞ヶ浦りんりんロードを活用した人の交流拡大、結婚から出産・子育てまで**若い世代に対する支援**など、茨城県ならではの地域づくりを進めています。

その様な時代だからこそ私たちの豊かな霞ヶ浦は茨城県のイメージアップに大きな役割を果たすと考えております。

平成28年第1回定例会で、通算4回目の一般質問を行いました。

今回の内容も「みんなの声を県政に」という初心に沿い、霞ヶ浦を生かした活性化、教育・環境問題、農林水産業の振興、安全安心な生活環境の充実、さらに、「**イノベーション大県いばらき**」が2050年に向けた充実した交通・情報ネットワークなど「**人が輝くまちづくり**」を実現するための事項を掲げました。

県政発展のため全力で取り組んでおりますが、初志貫徹、目標達成のためには、皆様方のさらなるご支援とご協力が必要でございます。今後もみんなの声を県政に届け、確実に成果を上げるべく活動してまいりますので、皆様方には、倍旧のご指導ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

■茨城県議会 役職

・保健福祉委員会副委員長・決算特別委員会委員



つくば霞ヶ浦りんりんロード環境調査活動

茨城県議会議員 外塚 潔

平成 28 年第 1 回定例会一般質問

(平成 28 年 3 月 8 日)

● 一般質問の録画は以下のサイトからご覧になれます。

茨城県議会・インターネット中継 <http://www.ibaraki-pref.stream.jfit.co.jp/>

1. 茨城県総合計画について



外塚議員質問

平成 28 年度から県政運営の基本方針となる新たな総合計画が策定される。県づくりの方向性として「イノベーション大県」が掲げられているが、県の具体的なあるべき姿が想像つかず、非常にわかりづらく感じている。特に、「充実した交通・情報ネットワーク」が基盤とされているが、県内の交通インフラの整備で、これから力を入れていく地域は明確にされていない。本県の発展のためには、イノベーションの評価を正しく行うとともに、霞ヶ浦二橋の実現を明確に位置付けることや、庁内体制づくりの一環として、筑波山・霞ヶ浦振興課の新設などが不可欠である。34年後の本県のあり姿をどのように構想し、新たな総合計画を促進していくのか。また、イノベーションに係る評価をどのように実施していくのか。



橋本昌知事答弁



本県のあり姿としては、引き続き「人が輝く元気で住みよしいばらき」を将来の姿として描いていきたい。そのためには、革新的な技術やアイデアによる新たな価値の創造、すなわちイノベーションが不可欠であり、本県は「イノベーション大県」を目指していく。交通ネットワークについては、広域交流と地域間連携を支える道路ネットワークが構築されていることや、東京都心との鉄道網の強化、港湾・航空の航路が充実している姿を構想として示していく。霞ヶ浦二橋については、今後の様々な状況を考慮し、さらに検討していく必要があるので、長期的な視点に立って 2050 年ごろの県土を描いた図の中に表現したい。庁内の体制づくりについては、計画全体の進捗管理は、局部横断的に進めていくが、筑波山・霞ヶ浦振興課の設置については、広範囲にわたる分野での取り組みが必要のため、一つの課で関係分野全てを担当するのは難しいと考える。イノベーションに係る評価については、毎年度、事業の改善などを図っていく際に、有識者に意見を聞きながら、イノベーションによる効果の把握に努め、評価していく。



2. 茨城国体に向けたおもてなしの取り組みについて



外塚議員質問

今回の国体では、県内の全市町村で何らかの競技が行われるので、**県民一丸**となって「おもてなし」をしていく必要がある。一言で「おもてなし」と言っても、老朽化が進む施設設備の改修などのインフラ整備のハード面とボランティアの育成などのソフト面の取り組みが、全県を挙げてのおもてなしにつながっていくと考える。茨城国体に向けて、ハードとソフト両面からおもてなしに取り組んでいくべきだが、所見を伺う。



理事兼政策審議監答弁



ハード面については、**総合開閉会会場となる笠松運動公園**において、和式トイレの洋式への改修や多目的トイレの増設、メインスタンド屋根拡張などの整備を進めるとともに、**高齢者や障害のある方**のために必要に応じて**仮設スロープ**などを設置する。また、各市町村の競技場でも、仮設トイレや休憩所テントなどの設置に対して支援を検討していく。ソフト面では、ボランティアの募集とともに、応接マナーや障害のある方へのサポート方法に関する研修会の開催によって、**接遇スキルの向上を図る**など、**人材育成、確保に努める**。

3. 職員の交通安全意識の向上について



外塚議員質問

知事部局の職員の交通事故の発生件数は、平成22年度から5年間で253件、うち県側に過失の存在する事故は135件と半数を超えていることから、毎年何十件もの事故が発生し、数百万円にも上る和解金が支払われている。そのため、**県では、職員に対しどのような交通安全教育を行っているのか**、こうした事態を解決するための対策を講じ、その結果がどう検証されているのか疑問を感じる。こうした状況を改善するため、**職員の交通安全意識の向上の一つの方策として、公用車へのドライブレコーダーの設置を提案する**。交通事故ゼロを目指し、職員への交通安全意識を向上させ、交通事故を減らすため、今後どのような取り組みを行っているのか。



総務部長答弁



知事部局における公務中の加害交通事故は、毎年30件前後発生している。そのため、**毎年、所属の管理者を対象に、事故防止や安全運転の研修会を開催し**、資料等を庁内ネットワークに掲載し、職員への周知を図っている。今年度は、新たに各部局に啓発用DVDを配布し、総務部として支援を行っている。**公用車へのドライブレコーダーの設置については**、老朽化した公用車の更新やカーナビゲーションシステムが設置されている公用車が少ないということなど課題も多く、それらとの優先順位や、**一部の先進自治体における導入の効果も研究しながら検討していきたい**。今後は、発生した交通事故の内容を分析・周知するなど、所属や職員への注意喚起の取り組みを強化し、公務中の交通事故を減らすよう取り組んでいく。

4. (仮称)水郷筑波サイクリングコースの整備状況について



外塚議員質問

日本一のサイクリング環境の構築を目指しているが、この度コースのかなめである土浦駅周辺のルートがようやく決まり、県道として一本につながるの、路面標示をはじめ拠点施設整備や活用について十分配慮いただきたい。また、霞ヶ浦周辺のコースは平坦で、視覚障害のある方などでも、**タンDEM自転車を利用すればサイクリングを楽しむことが出来る**。こうした方々の利用も念頭に置いて、サイ



クリング環境の整備に取り組んでいくべきと考える。今後、ソフト・ハード面で、どう取り組んで行くのか。

企画部長答弁



誰もがサイクリングを楽しめる日本一のサイクリング環境の構築に向け、水郷筑波サイクリング環境整備総合計画を策定している。ソフト面では、今年度始めた広域の乗り捨て型レンタサイクルに加え、指定場所に自転車などを運ぶ移動式のレンタサイクルについてもシステムの構築を検討していく。ハード面では、土浦市内の接続ルートが決定したので、案内標識や路面標示などとあわせて先行して整備する。休憩施設のトイレの洋式化なども実施する。さらに、コース全体においても、地元市町村と連携しながら、今後、地域全体で統一した案内標識等の設置やポケットパークの整備などに取り組む。**タンDEM自転車については、多くの方々の利用につながることを期待できることから、今後課題を整理しながら道路管理者と協議していく。**

5. 世界湖沼会議開催への取り組み



外塚議員質問

世界湖沼会議の誘致については、繰り返し質問してきた所、昨年10月、2018年に茨城県において第17回世界湖沼会議が開催されることが決定したが、**開催準備状況はどうなっているのか**。今後、会議の方向性や基本計画が決定されていくと思われるが、県民への啓発活動など目に見える動きが見受けられない。情報が少ないため、会議開催に協力する関係市町村では、開催準備をどう始めていいのかわからない状況に置かれている。また、この世界湖沼会議を、**再度、県民の皆さん全てに霞ヶ浦の水質浄化に興味を持っていただく契機とする**とともに、研究者や市民運動の参加者の育成や世代交代を促していく必要がある。今後、**世界湖沼会議開催に向け市町村などと、どのように連携していくのか**。また、どのように啓発に取り組んで行くのか。



生活環境部長答弁



市町村などとの連携については企画準備委員会を設置し、2月15日に第1回会合を開催したところである。今後は、夏ごろを目途に会議のメインテーマや開催の趣旨などを定めた基本構想や、さらに、会議の内容を具体的に示す基本計画を平成28年度内に策定したい。その際には、**市町村や市民団体の意見を聞き共通理解を図りながら進める**。

さらに、前回の本県での会議の経験者を有する霞ヶ浦市民協会においては、世界湖沼会議に向けたシンポジウムを開催していることから、そのような場所も活用し、新設された団体を含めた市民団体や関係機関との意見交換や情報共有を図っていく。

また、**世界湖沼会議に関するパンフレットやホームページ、県広報誌「ひばり」や、いばキラTVを活用して広報を行うとともに、市町村などとも連携して啓発に取り組んで行く。**

NEWS

平成30年10月15日(月)～19日(金)開催決定!!

6. 生活困窮世帯の子どもを対象にした学習支援事業について



外塚議員質問

昨年8月から阿見町で生活保護世帯や生活困窮状態にある世帯の児童・生徒を対象とした学習支援事業「いば・きら塾」が行われている。生活困窮世帯でなかなか学習塾に行けない児童生徒にとって、**学習機会を与えられる事業として、県内に広く展開していただき、**学業に取り組むことで、貧困の連鎖を断ち切る一助になり得ると期待している。事業成功のためには、現場の声を収集し、フィードバックしていくことが必要である。また、**学力アップをメインにするのか、生活相談に重きを置くのか、**市町村で判断に迷う部分がある。どこに注力していくのか明確にすべきである。この学習支援事業を全県に展開していくべきだが、今後どのように取り組んで行くのか。



保健福祉部長答弁

県において、昨年7月から全市を訪問して本事業の意義などを説明し、8月には、自治体や関係団体等を対象に、学習支援事業を考えるフォーラムを開催するなどした結果、**平成28年度は県内の半数程度の市が新たに本事業に取り組む予定となっている。**また、現場からの意見により、ボランティアの確保の取り組みや夏休み中の開催回数の増加を図っている。本事業の内容については、**まず学力の向上や学習習慣の定着が基本と考える。**一方、子どもたちが自分と向き合ってくれる学生ボランティア等と接することや、保護者の相談や生活支援につなげられることなど、学習支援事業の多様な意義を踏まえながら展開を図っていくことが重要と考える。今後、**各自治体の福祉部門や教育委員会と連携し、積極的に事業を推進していく。**



7. 野生鳥獣による農作物被害の対策について



外塚議員質問

県の野生鳥獣による農作物被害は、平成26年度は約5億9千万円と増加傾向にある。得に、鳥類によるレンコンの被害は深刻で、被害金額が毎年4億円前後となり、**県内の鳥獣被害による被害金額の7割を占めている。**地元かすみがうら市でも被害に悩まされている。鳥類やイノシシの生態をさらに詳しく研究し、現行の対策でよしとすることではなく、いろいろな方法を試しながら対策を練るとともに、県と市町村との連携強化がこれまで以上に必要である。特に、防鳥ネットによる鳥類への対策は、再来年の世界湖沼会議の開催により、霞ヶ浦の周辺環境に注目が集まることを考えると、**現在の対策が最善とは言えないのではないか。**鳥類とイノシシの農作物被害に対するこれまでの対策を踏まえ、今後どのように取り組んで行くのか。

農林水産部長答弁

イノシシ対策については、平成24年度から、市町村職員などを対象として茨城猪塾を開設し、**獣害対策サポーターを養成し、知識を習得したサポーターが住民の方々と活動している。**一方、水鳥によるレンコン被害対策は、昨年から鳥の種類や食害の実態などの調査が始まったばかりである。調査結果を活用し、レンコンの生産性と自然環境に配慮した新たな被害防止策を検討していく。今後も、産地を初め市町村、**大学や研究機関などと幅広く研究しながら、それぞれの地域に合った、より効果の高い対策が講じられるよう努める。**



8. 職業教育の充実について



外塚議員質問

平成26年第3回定例会の一般質問において、**偕楽園における実習の実施などを提案したが、昨年12月に県立石岡第一高校の造園科が偕楽園で剪定実習を行った。今後も、実習を継続するとともに、他の学校でも実習が行えるよう、実習内容などを拡充していただきたい。**また、**職業学科の生徒たちだけでなく、普通科なども対象として、多くの生徒たちが現場や地域資源を活用した実習を行っていくべきと考える。**そして、最終的には、生徒たちの職業意識の向上を図っていくことが大変重要と考えている。今後、**職業教育の充実にどのように取り組んで行くのか。**

教育長答弁



議員ご提案の偕楽園での剪定実習は、生徒から好評で**就業意欲の向上に大いに効果があったと考える。**こうした県内の名所など地域資源を活用した取り組みは、生徒たちの社会性を身に着ける上で大変有効なので、**今後も職業学科だけでなく普通科なども対象として拡充を図っていく。**また、県内の高校の中には、将来の地域を担う人材を育成するために、**地域活性化の視点を取り入れ、地域と連携した新たな取り組みを始めた学校もあり、こうした先進的な事例を県全体に周知・普及させ、職業教育のより一層の充実を図っていく。**

9. G7茨城・つくば科学技術大臣会合に向けたつくばのまちづくりについて

(1) つくばの景観づくり



外塚議員質問

本年5月にG7茨城・つくば科学技術大臣会合が、つくばで開催される。今後も、継続して国際的に重要な会議やイベントが行われるにふさわしい景観づくりをしていかななくてはならない。特に、つくばの景観として印象に残りやすい街路樹については、この会合を契機に計画や管理マニュアルなどを策定していくべきである。**世界のどなたをお迎えしても魅力ある景観づくりが必要である。**今後、どのように取り組んで行くのか。



世界のどなたをお迎えしても魅力ある景観づくりが必要である。今後、どのように取り組んで行くのか。

土木部長答弁



つくばでは、街路樹に関するさまざまな課題が顕在化しているため、都市計画や景観、樹木の専門家などから構成される検討委員会を年度内に立ち上げ、この委員会において、「つくば方式」によりこれまで築いてきた景観の評価、検証を行い、街路樹の今後のあるべき姿を専門的な見地から議論してもらうことになっている。県としては、検討委員会の意見等を踏まえ、**街路樹の維持・再生のための計画を策定するとともに、街路樹を適切に管理していくためのマニュアルも併せて検討していく。**

(2) 安全安心の生活環境整備



外塚議員質問

G7閣僚会議が行われ、各国の重要人物が訪れる中で、県民の生活環境が脅かされないよう、テロなど犯罪への**厳重な警戒と対策が必要とされる**。不審者の通報などについて、特に外国人旅行者などから協力を得るためにも多言語で、啓発活動を行っていくべきである。さらに、関東では、警視庁・神奈川県警・千葉県警のパトカーに「POLICE」の表記があり、**本県でもこの表記をすべきである**。つくばに、ひいては茨城県全体に、安全安心の生活環境を整備していくべきだ、今後どう取り組んでいくのか。

警察本部長答弁



外国人に向けては、つくば市が発行する**広報誌に英語など6カ国表記によりテロの未然防止への協力を求める記事を掲載**などしているが、同様にチラシも作成・配布していく予定であり、あらゆる媒体を活用して効果的な広報啓発に努める。また、**パトカーへの外国語表記については、当面つくば市内の車両を中心に導入することとしており、今後逐次拡大を検討していきたい**。今後とも、業務の国際対応力の強化を図り、外国人を含め安全安心を実感できる生活環境の整備に努める。



10. 県道戸崎上稲吉線の歩道整備について



外塚議員質問

通学路の歩道整備については、たびたび質問してきたところであるが、**前回の質問から2年経過している**ので、**戸崎上稲吉線の歩道整備について確認する**。神立駅から**国道6号下稲吉交差点**までの区間及び下稲吉交差点から西側の区間は、現在でも、小中学校の通学路であり児童生徒は危険にさらされたままである。さらに、神立駅から南に下った**国道354号との加茂入口交差点も危険な状況**である。県



道戸崎上稲吉線の歩道整備の現在の状況と今後の見通しは。

土木部長答弁

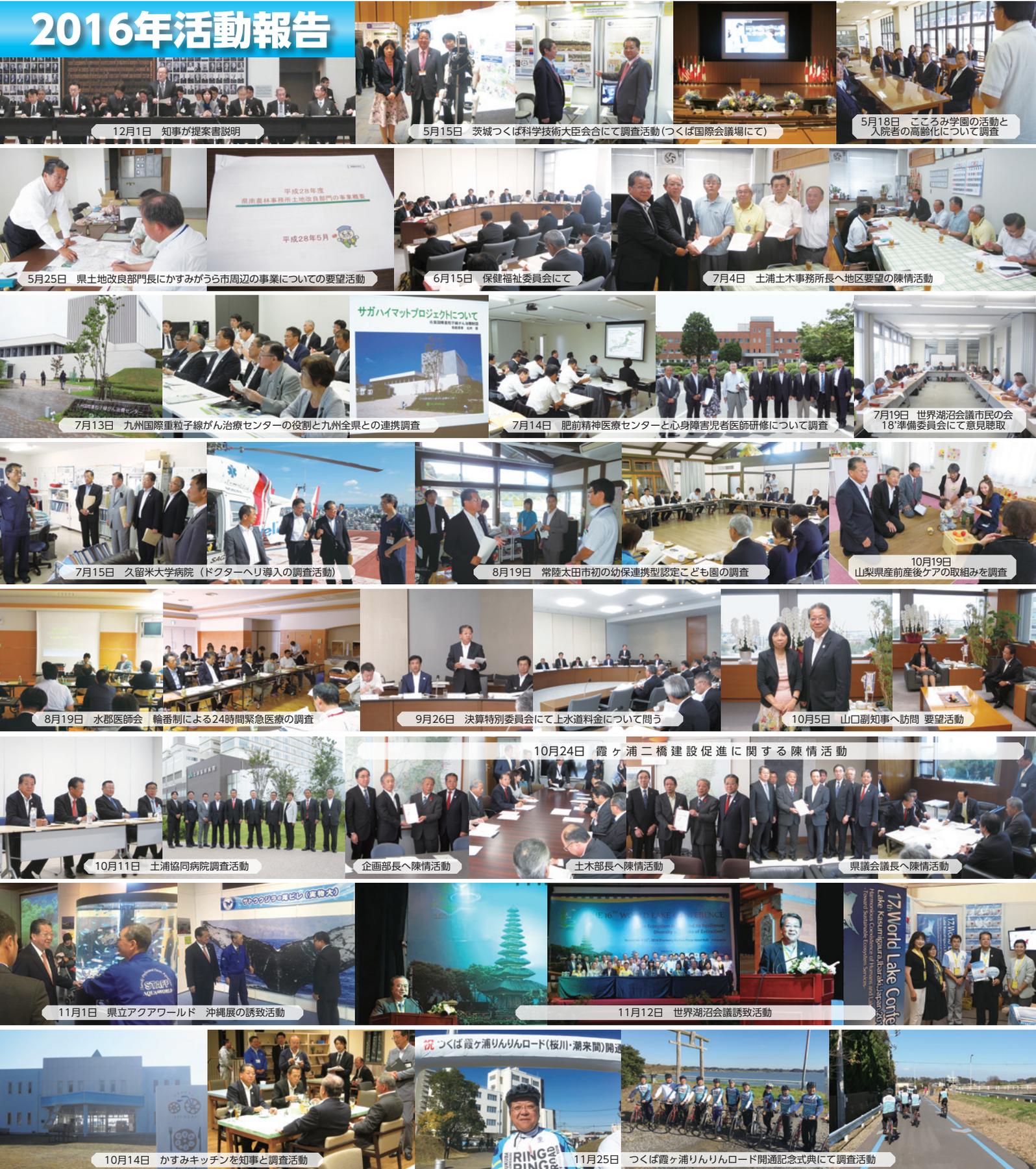


まず、神立駅から**国道6号**までの区間は、現在、**用地の契約に向けた交渉を進めており、**今後は**用地の協力が得られ次第、工事に着手していく**。次に、**国道6号下稲吉交差点の西側の150m区間は、歩道整備の実施にあたり用地取得や建物の移転が必要となるなどの課題があるため、今後どのような整備が出来るのか具体的な検討を行っていく**。最後に、**国道354号との加茂入口交差点は、昨年度から右折レーンの延伸と歩道整備に向けて測量や設計などを進めてきており、平成28年度は用地取得に着手する予定で、用地取得完了後は速やかに工事に着手していく**。



念願の歩道拡幅整備を実現させました!!

2016年活動報告



発行 / 茨城県議会議員 外塚 潔

〒315-0055 かすみがうら市稲吉南3-14-20

mail:totsuka.kiyoshi@poplar.ocn.ne.jp

<http://www.totsuka-kiyoshi.net>

TEL 029-831-6880 FAX 029-831-6882

